

第2回 大井川河道整備検討会 議事録

■日時：平成29年3月3日（金）11：00～12：30

■場所：島田市民総合施設プラザおおるり 3階 第3多目的室

■議事内容

1. 第1回検討における指摘事項と回答について

(1)特になし

2. 河口部の掘削方法

- (1)（委員）掘削の際に植生を残すと再樹林化しやすいと思われる。むしろ裸地を維持しようとしても勝手に植生が繁茂してくる事例が多い。
- (2)（委員）大井川は本来、流路変動が生じる頻度が高い川という認識である。人為的な改変により滯筋の改変を行うということではなく、自然の営力による河床変動を積極的に促すような掘削形状を検討してはどうか。例えば、横断勾配が緩やかになるように掘削するが考えられる。河床変動を促せば、河道攪乱により再樹林化を抑えられる可能性が高いことから、掘削により切り下げた砂州高が維持されるかを確認し、掘削後に樹木が入らないような掘り方について工夫するのが良い。また、提案された掘削範囲の下流に大きな樹林帯があり、掘削後、その影響が出ることも考えられる。
- (3)（委員）今回は5年計画の緊急的な掘削であるが、今後の長期的な総合土砂管理計画にもつながるような掘削という観点もあると思う。
- (4)（委員）今後、掘削を実施した場合のリスク管理も考えておいた方が良いのではないかと。例えば掘削後に重要種が消失するといった事態や、予定通りの掘削ができなかった際の対応方針を検討しておく必要がある。
- (5)（委員）鳥の営巣地形成のための裸地の創出について、今回の掘削により砂州が裸地となるが、今後も裸地の形成と維持を目指した検討をしてほしい。
- (6)（事務局）今回の河道掘削は流下能力を向上させるための短期的な取り組みである。砂州の固定化や再堆積等を考えるとさまざまな掘削方法が考えられるが、今回は保全対象種の保全を最優先として掘削範囲等を検討した。今後はモニタリングにより掘削後の状況を確認していく方針である。大規模洪水等が生起した場合の緊急的な対応も含め、今後は臨機応変な対応を実施していく考えである。
- (7)（委員長）（各委員に同意を求め）今回提示された方針により掘削を実施していくことでよい。

3. 牛尾山付近の掘削方法

- (1)（事務局）掘削箇所について再堆積や再繁茂を抑制する手法としてはどのようなもの

が考えられるのか。例えば締め固めが強い箇所は重機でほぐすというような対策は有効なのか。

- (2) (委員) 一般的には表層の河床材料が礫であれば植生が侵入しにくい。
- (3) (委員) 牛尾開削後の流況変化がどうなるのかわからないため推測になるが、掘削区間は平面的に湾曲内側であり堆積する可能性が高いと思われる。環境への配慮とのバランスが重要だが、流水が乗りやすい掘削高を設定し河床変動を促すような掘削方法も考えられる。また、河床を重機でほぐすと一時的には河床が柔らかくなり河床変動がしやすくなるため一定の効果はあると考えられる。
- (4) (委員) 再繁茂については伐採の方法によっても変わってくる。掘削時に伐根も合わせて実施することも効果があると思う。また、樹木については大井川の樹林化状況を鑑みて、今後の河道管理という大きな視点で考えていく必要がある。
- (5) (委員) 牛尾の掘削に関して、モニタリング計画が示されていないが、河口部掘削のモニタリング内容と同様か？
- (6) (事務局) 河口部掘削のモニタリング計画の中から、必要な調査を実施していく。
- (7) (委員長) (各委員に同意を求め) 今回提示された方針により掘削を実施していくことでよい。

4. 今後のスケジュール

- (1) 特になし。

5. その他

- (1) (委員) 大井川は今後樹林化が進行する可能性が高く、今後の樹木管理方法を考えていく必要がある。ダムの運用などの影響で中小洪水の頻度が少なくなり、これにより河床のかく乱が少なくなり、樹木が繁茂してくるようになっている。現在はまだ樹林化がそこまで進行していないが懸念される状況のため、今のタイミングで今後の河道管理方法を検討することが重要である。
- (2) (事務局) 本日頂いた意見等については個別に対応させていただき、次回検討会の開催については状況をみて判断させていただくので今後ともよろしく願います。

以上